

## ✿ 日韓発掘交流に参加して

韓国国立文化財研究所との研究交流の一環として、2014年8月18日から10月2日まで、国立慶州文化財研究所に滞在し、5世紀の新羅支配者層の墓域であるチョクセム古墳群、統一新羅時代の東宮跡と推定される新羅王京遺跡の発掘調査に参加しました。

チョクセム古墳群は、2007年から国立慶州文化財研究所が調査を継続してきており、積石木槨墳つみいしもつかくふんとよばれる新羅特有の墳墓が一面に広がります。その中でもやや規模の大きい44号墳（直径約30m、高さ4m）は、現在「チョクセム遺跡発掘館」と名付けられたドーム状の施設で覆われており、内部で発掘調査が進められています。「発掘館」では、発掘現場自体が博物館のように、常時市民に公開されており、誰でも自由に調査の様子を見学できます。韓国でも初めての試みとのことで、今後、発掘調査の公開手法のモデルケースになるものと思われます。

続いて参加した新羅王京遺跡では、精緻に加工された石材で飾られた基壇、礎石やそれを据え付けた穴が所狭しと検出されており、遺構の密集度と遺存状況の良さに感動を覚えました。また、藤原宮や平城宮との規模や構造の違いを感じながらの調査は、とても有意義なものでした。自らの手で韓国の遺跡の土や石に触れることができ、遺構の構造や調査方法をめぐって意見を交わすことのできた点でも、大きな収穫が得られました。

日韓発掘交流は今年度で9年目を迎えました。この間、奈良文化財研究所と国立慶州文化財研究所との間で築かれてきた絆の深さを滞在中の様々な場面で実感できました。今後もこの発掘交流がさらなる発展を遂げることを期待しています。

（都城発掘調査部 廣瀬 覚）



新羅王京遺跡での発掘調査風景